



果樹特報

平成 28 年 4 月 8 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

発芽期から 6 月上旬までは、黒星病・黒点病等の重要防除期間です。黒星病の一次感染は、開花前後（4 月下旬）がピークです。この期間に低温・降雨（長い濡れ時間）が続くと越冬病菌からの一次感染が拡大し、果実感染の要因となります。黒星病等の一次感染予防のため、発芽 10 日後の薬剤散布を進めてください。併せて、近年増加中のうどんこ病感染予防のため、枝病斑の切除と薬剤散布も実施してください。

りんご

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡若宮）

年度	発芽	開花	満開
平年	4 / 4	5 / 2	5 / 5
H 2 6	4 / 3	5 / 2	5 / 3
H 2 7	3 / 3 1	4 / 2 7	4 / 2 9
H 2 8	3 / 3 1	4 / 2 5 頃	4 / 2 7 頃

発芽は昨年並みで南北の生育差も小さい状況です。ただし、小雪で経過したため、土壌乾燥状態であり、今後、開花のバラツキや貧弱花の多発等が心配されます。よって、開花前までにかん水等を実施し園地内湿度を上げる等の対策を講じてください。

ふじの開花は昨年並みの見込みです。（4 月下旬頃）黒星病感染予防のため、開花期の薬剤散布は特に遅れないように注意してください。

【発芽 10 日後の薬剤散布】

散布時期：4 月 10～15 日頃 *注意事項③参照
散布薬剤：水 1 0 0 リットル
展着剤 1 0 ml
トレノックスフロアブル 2 0 0 ml *③参照
対象病虫害：黒星病・黒点病・（うどんこ病）
10 アール当たり散布量：350 リットル

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 収穫中の他作物等への飛散に注意してください。
- ② 低温等により、展葉等が遅れていても、左記の散布時期を目安に散布する。
- ③ 前年度うどんこ病発生園は、コロナフロアブル 400 倍（4 回以内）を加用する。うどんこ病の感染は発芽 10 日後から活発になるので注意する。

◆ 散布日：4 月 日
◆ 散布量： リットル

◆ 次回（開花直前）の薬剤散布予定
ふじの開花期：4/22～30 頃

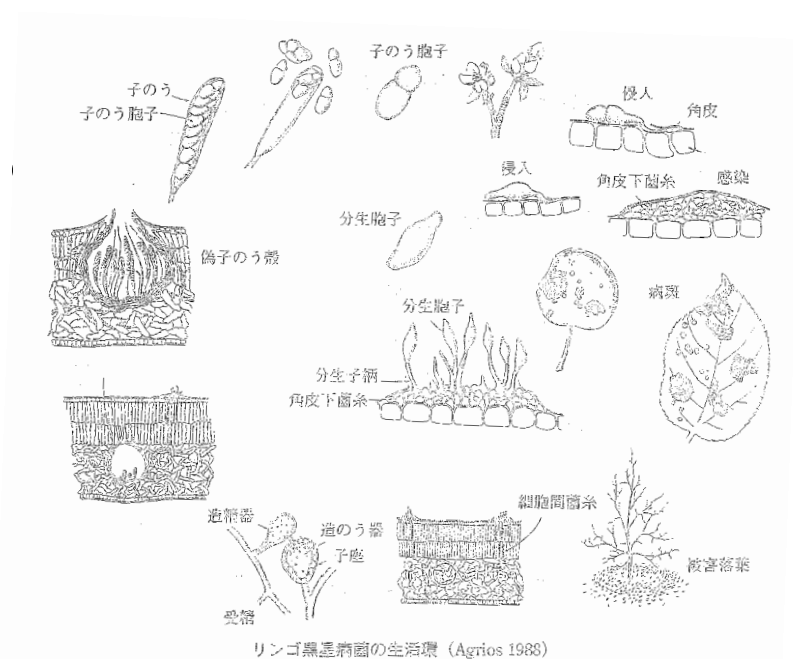
【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は 15～20℃で、この温度での潜伏期間は約 10 日である。

一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生胞子の発芽適温は 15～25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現われる。

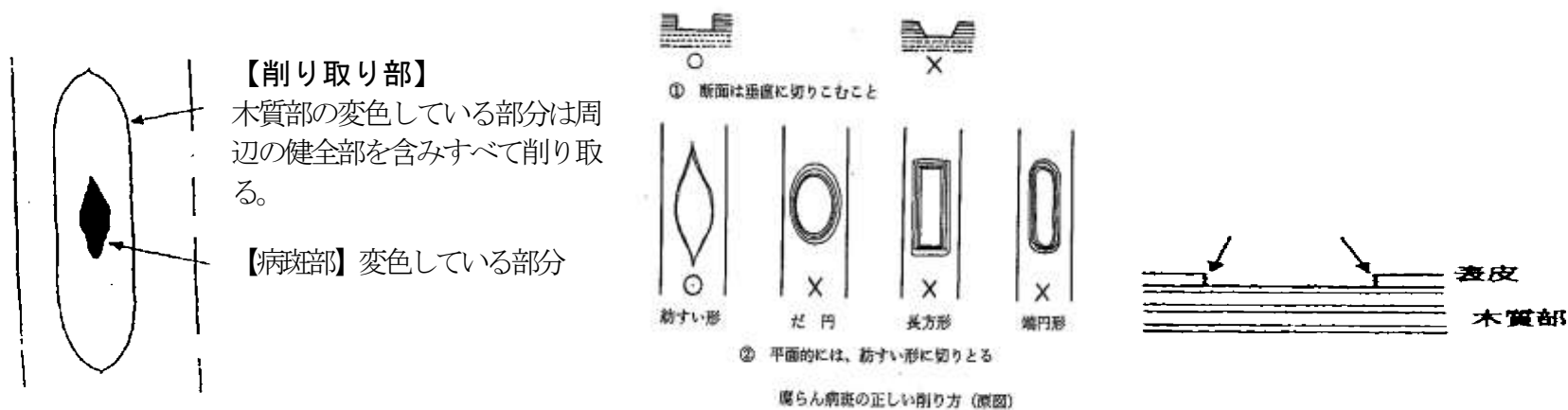


リンゴ黒星病菌の生活史 (Agrios 1986)

4月の重点管理作業

1. 腐らん病対策（早期多発傾向です！病斑の削り取り・切除・感染予防に努めてください！）

腐らん病斑を見つけ次第、早めに粗皮削り等を行い感染拡大に努めてください。病斑を放置すると、梅雨の期間に蔓延します。早期発見・早期治療を徹底してください。詳しくは、腐らん病対策特報をお読みください。



2. 粗皮削り（カイガラムシ類・輪紋病対策）

カイガラムシ類の寄生が多い園では、5月に入る前に金ブラシ等で削り落とす作業を行い、密度抑制に努めてください。また、輪紋病(いぼ皮病)の罹病樹(枝)も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけ次第、必ず粗皮ケズリを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。「いぼ皮」を放置すると、梅雨の期間に果実感染が拡大します。ご注意ください。

3. うどんこ病対策

黒星病と並び、春の重要病害であるうどんこ病は、4～5 月が高温・少雨であると感染が活発になります。現地では被害芽（越冬芽）がハッキリと確認できます。**被害芽は健全芽と比べると、発芽が約 10 日前後遅く、しまりのないボケ芽状態になっています。**つがる、紅玉等のり病し易い品種では、被害芽（枝）の先刈りを徹底してください。そのまま放置しておくと、一次、二次感染が進みますので、できるだけ早い時期に密度抑制対策を講じてください。また、薬剤予防として、発芽 10 日後の薬剤散布にコロナフロアブル 400 倍等を加用してください。



← 越冬した被害芽は、健全芽と比べると発芽が遅く、しまりのない芽（ボケ芽状態）。

4. ケムシ類（マイマイガ）対策

3年前県内で多発したケムシ類（マイマイガ）の発生が心配されます。ケムシ類は若齢のうちに防除しておくことが重要です。開花前後の高温で急激に発生する恐れがあります。よって、ここ数年被害が大きかった園や街灯等が近くなる園では、下記の有効薬剤等を今回の定期散布に混用する等の対策を講じてください。

- ◆ サムコルフロアブル 5,000 倍（ケムシ類・シンクイムシ類・ハマキムシ類に効果あり）
- ◆ フェニックスフロアブル 4,000 倍（ケムシ類・シンクイムシ類・ハマキムシ類に効果あり）

5. ふじ受粉環境の整備について

実際のふじの開花を迎える前に、受粉能力を最大限生かせるように早い段階で整備を進めてください。

- ① 開花 10 日前から定期的なかん水を行い、土壌の乾燥防止に努める。（花の咲き揃いを良くする）
- ② 日光の入り程度を確認し、園地全体にまんべんなく光が入るようにする。光を大きく遮る中枝等は早めに切除する。（日光が不足すると、小さな花が多くなる）
- ③ 人工授粉用花粉の準備。（貯蔵花粉を使用する場合は、しっかりと湿度にならしておく）